



友好を深めた中国への課外海外研修

ハルビン理工大学など中国2都市を訪問した課外海外研修は、9月1日（水）から8日（水）までの8日間、学生9名、教職員2名の計11名が参加して行われ、両大学ならびに日中両国の友好と親善に貢献しました。

2年ぶりとなった研修は前半到北京、後半にハルビンを訪問。中国どこか海外が初めてという学生が多いなか、ハルビン理工大学外事弁公室の刘晓東さんらのご協力により、無事に全行程を終えることができました。特に同大学の日本語学科で学ぶ学生との交流は、今回の研修のなかでも忘れられない思い出となりました。

CONTENTS

- 1 友好を深めた中国への課外海外研修
- 3 ウィンドサーフィン実習
教員父母連絡交流会を開催
- 4 建築学科、「第2回住宅設計コンペティション」を柏崎フォンジェで開催!!!
- 5 弓道部・正射必中!
柔道部・祝、北信越2位!

- バスケ・県選抜代表選手に選ばれる!!
- 6 建築学科における職業実習報告会を終えて
- 7 座談会 職業実習で得たものは?
- 8 オープンキャンパスは今年も盛況
- 9 公開講座は全日程を終了
- 10 卒業生の職場を訪ねて⑥
- 11 柏崎工業メッセ2004に出展

- 技術者向けスキルアップ講座を開講
- 12 佐伯教授が日本機械学会より表彰
飯野教授に日本リモートセンシング学会より功労賞
初めての同窓会総会を開催
新潟県中越地震、本学も直撃
編集後記

今回海外研修に参加した学生の手記を紹介します。

友好を深めた中国への課外海外研修

中国研修旅行を終えて



建築学科 4年 小島 歩美
(新潟県立小千谷高校出身)

中国という国のイメージは、北京や上海のきらびやかなものだけでした。しかし、北京で見た歴史やハルビンで交流した学生の方の話を聞くと、決してそれだけではない国だということが分かりました。

北京での4日間は、中国の歴史の深さと重さを自分の肌で感じることができました。まず、宇宙から唯一確認できる建造物、万里の長城。この場所は、今回の旅行で私が一番楽しみにしていたところです。万里の長城を自分の足で歩いた時は、本当に感動しました。それと同時に、これを建てた人の技術力に驚きました。実際に歩くと分かりますが、とてもきれいな造りをしています。修復しながらにせよ、6千kmという気の遠くなる長さの建造物が今なお生きていることに中国の歴史の深さを感じました。

中国の建物は、色や数の意味をととても大切に造ら

れています。黄色は権力、赤は幸せ、数字の9も幸福を意味します。そのため皇帝がいた故宮は、黄や赤が主に使われ、扉の杭の数は9に関連して造られていました。日本の木造建築物は、木の美しさそのものを活かした造りなので、中国の建築物との大きな違いを感じました。

北京市内では、ある建築雑誌に載っていた「建外SOHO」を、移動中のバスの中からでしたが見ることができ、友人2人と大騒ぎしました。これは日本の建築家・山本理顕が手懸けた集合住宅群兼オフィスビルです。また、他にもイルミネーションが至る所で光っていました。しかし、少し目を他の所に向けると、質素な住宅が並んでいました。北京からハルビンに移動する列車内から見た風景にもショックを受けました。それは、道も舗装されず、きれいとは言えない建物が密集していたからです。そこに中国の貧富の差の厳しさを見たような気がしました。

今回の旅行では、日本にいたら感じることもなかった思いを、たくさん感じることができました。一番最初に感じた言葉の壁は、一週間付き添ってくださった刘さん、ガイドの2人の張さんに助けられました。ハルビン理工大学の学生さんとの交流では、一つの目標に向かって一生懸命頑張ることの大切さを学びました。私にとって、素晴らしい経験になりました。

最後になりましたが、今回の中国旅行に付き添われた佐伯先生、牧野さん、刘さん、ハルビン理工大学の先生方、学生の皆さん、今回の旅行を計画してくださった皆さん、本当にありがとうございました。工科大の仲間にも恵まれ、とても良い旅行になったことを、短いですがここに感謝の気持ちとして記します。これからも、ハルビン理工大学との友好関係が続いていくことを心から願います。ありがとうございました。

ハルビン理工大学との交流に参加して

物質生物システム工学科 2年 佐藤 理人
(群馬県・市立前橋高校出身)

今回の課外海外研修（中国）での、ハルビン理工大学の学生との交流は意義あるものだったと思います。

私は、海外は初めてだったので少し不安もありましたが、ハルビン理工大学の皆様は私達を温かく歓迎してくれました。ハルビン理工大学のキャンパスは大変広く、学生も積極的に勉強しているようでした。

日本語学科の学生は日本語をそれはもう上手に話してくれました。むしろ私達日本人学生より敬語もきちんとしていたので反省させられました。

夕食での両大学学生交歓会では、酒を酌み交わしながら両国の文化を語り合ったり、写真を撮ったりとても楽しい時間を過ごしました。

今日、中国と日本は侵略戦争や領土など複雑な問題で、今でもスッキリとした外交関係とは言えません。しかし、

今回中国の人達と交流する機会を通して、彼らはわれわれ日本人学生に対して人なつこく話してくれ、陽気でもとても親切な人達だということを実感することができました。

実際に外国に出会うことは本当によい経験になりました。



大いに盛り上がった交歓会

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2004/china04.html>】

ウィンドサーフィン実習

本学で初めてのウィンドサーフィン実習が9月2、7、8日の3日間、柏崎市の中央海岸で行われ、初心者から経験者まで14名が受講しました。体育の学外授業としては、毎年冬期にスキー実習を行っていますが、マリンスポーツが盛んな地元で技術を身に付けることができ、有意義な実習となりました。今回受講した学生の手記を紹介します。



『ウィンドサーフィン 実習を終えて』

建築学科 1年 吉田 拓矢
(山形県立山形工業高校出身)

ウィンドサーフィン実習初日、台風等の影響で予定日より遅れて授業開始。悪天候の中だったがテキパキと準備が終わり、インストラクターの早川さんから指導を頂く。陸上でのイメージトレーニング、操作の仕方等を教わり、いざ海の中へ。水は思ったより冷たい。波のせいで揺れる板の上は、僕たちを不安にさせる。



なかなかマストが持ち上がらない。夢中で波と格闘していると、次第に体が慣れ、持ち上がる。マストに風を受けた瞬間、すごい速さで進んで行く。途端にバランスを崩し、落下。その後、僕たちは何度も失敗した。成功の数のほうが少ないくらいだ。しかし、風を受けた瞬間の感動は忘れられない。3日間という短い期間ではあったが、たくさんの経験ができた。友達もできたし、何より自然と触れ合い、遊ぶことができたことがうれしかった。こんな素敵な体験いっぱいウィンドサーフィン実習ができて本当に良かった。自然の力のすごさを感じたこの夏の思い出は、生涯忘れないだろう。

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2004/windsurfin.html>〕

教員父母連絡交流会を開催

平成16年度教員父母連絡交流会が9月11日（土）、300名を超えるご父母の出席により開催されました。同会は、本学学生の保護者を会員とする「新潟工科大学後援会」が、学生の教育活動や大学生活の充実をはじめ、教職員と保護者の方々との連携・交流によって、より良い教育環境を作っていくための活動の一環として毎年開催しているものです。

「学科別連絡交流会」では、学科ガイダンスや個別面談、前期成績表の配付を行い、担当教員が1名ずつ丁寧に日常の生活ぶりなどを交え面談を行いました。参加されたご父母にとっては「普段見えない部分を知るよい機会に

なった」と大変ご好評をいただきました。

「学長父母連絡交流会」では、今年度は後援会の設立10周年記念特別企画として、BSNラジオの人気パーソナリティー大倉修吾さんと、タレントで気象予報士の小杉みささんを招いてのトークショーが盛り込まれ、会場は笑いあり、歌あり、抽選会ありと、例年とは違った雰囲気での交流会となりました。

このような交流会を実施している大学は全国でも少なく、きめ細やかな教育を掲げる本学を象徴する行事となっています。今後も大学とご父母との密接な関係の構築に努力していきたいと思ひます。



個別面談



学長父母連絡交流会



トークショー

建築
学科

「第2回住宅設計コンペティション」を
柏崎フォンジェで開催!!!



♪ 展示会には学生たちはもちろん、買い物帰りの方々にも多数、気に入った作品に投票していただいた。建築の穂積学科長ももちろん参加。中野先生はお子様連れで登場されたが、小学生の心をとらえて1票を得た作品はどれだったのだろう? ちなみに展示会中、なぜか地元の「ジュニアダンスチーム」の踊りがそばで始まって、我々のイベントを祝福してくれた(ように見えた)。



♪ どうですか、力作の数々!!! 皆いい建築家になるね、きっと。表彰式には、入賞できなかった応募者も皆キチンと参加して、拍手を贈ってくれた。そう、ガンバッタ友達にエールを送るのはとても大切。次回こそ入賞を目指そう!...で、次回はいつなんだ、横山君?



♪ 投票締め切り後、直ちに集計に入る。「おお、俺の作品に1票入っている!」などと湧く実行委員諸氏。しかし、賞状に入賞者の名前を打ち込んで印刷して、賞品を準備して...この後すぐに始まる審査発表会に間に合わせなくてはならないから、ゆっくり喜んでいられない。



「文句なしにおもしろい!」と、来場者に大好評! 建築学科主催「住宅設計コンペティション」も2回目を迎え、ついに学外での展示会開催となりました。7月17日(土)、18日(日)、柏崎ショッピングセンター「フォンジェ」の展示スペースを丸々借り切って、例のごとく「CAD・コピーを一切使わない」手書きオリジナル作品108編を堂々展示しました。

ある建築学科2年次学生のお兄さんご夫妻(新婚サンです)が、頸城村の分譲地に住宅建設を真剣に考えておられる、という話が私のところに舞い込んで来たことから、本コンペの開催となったわけですが...「奥様は将来ご自宅で学習塾を開く予定」「ホームシアターを楽しみたい」「リビング・ダイニングの天井高は高めに」「屋根には親戚の瓦屋さんの瓦を使う」「車庫の上はハナレとして使えるように」、そして「トイレは男女別にしたい」(...新婚なのに?) などなど、大変に要求項目の多い課題でした。応募作品はどれも皆見事にこれらの要求をまとめたものばかり! 例のごとくギャラリーによる人気投票も行って、最優秀賞に輝いたのは建築3年・横山雄貴君の「花鳥風月」という作品。茶系の和紙に本格的な庭園や鳥の絵までも描き込んだ本格的な和風住宅の提案で、誰もが納得の入賞でした。この絵心はさすがですね。また、前回僅差で入賞を逃し悔し涙を飲んだ学生が今回は軒並み入賞するなど、学生たちの住宅プランニング・ドローイ

ングテクニックが全体に大変に伸びたことを実感した展示会となりました。

ちなみに、建築4年や大学院生からはちょっと変わった提案がいくつかありました。「一切歩かずに家事を済ませられる家」「露天風呂のある家」「足が生えていて歩いちゃう家」...正攻法で入賞を狙うのではなく、その奇抜さで後輩たちのド肝を抜こうとは、さすが! 先輩としての余裕と風格が漂っていましたよ(笑)

今回の開催は、日程と開催場所の決定、入賞賞品の選定、会場作り、そして賞状の印刷まで、あらゆる準備を建築2年の有志グループで行いました。実行委員長の庄司悠也君、太田和宏君、角張潔君はじめ、皆大変お疲れ様でした。え? 「第3回コンペ」はいつ開かれるのかって? ...それは、今回の入賞者諸君が近々「自主的に」企画・運営委員会を立ち上げてくれるでしょう。より楽しいイベントになることを期待してアナウンスを待ちましょう。最優秀賞の横山君をはじめ入賞者10名、あとは任せよう! 新築住宅をお考えの皆様、是非我々にプランニングをお任せください。ご連絡、お待ちしております! v(^ ^)

建築学科 教授 飯野 秋成

【関連URL <http://www.niit.ac.jp/abehtml/iinolab/compe2004/compe.htm>】

正射必中!

弓道部 部長 横山 雄貴 (建築学科 3年 新潟県立新発田南高校出身)

弓道部は昨年「部」に昇格し、新入生も入り、毎日の練習にもますます力が入っています。他大学との交流も盛んで、長岡技術科学大学とは毎年夏季に合同で合宿を行い、新潟産業大学とは特に交流が深く、毎週水曜日には合同記録会を行うなど、大学の枠にとらわれず、広い活動を行っています。活動は主に柏崎市武道館で行っており、武道館では、一般の方や、柏崎高校弓道同好会の生徒も練習をしています。

今年度の主な大会成績は右記のとおりです。

柏崎市弓道遠的大会
県下弓道新発田大会
謙信公祭信越弓道大会
県下弓道水原大会
上越地区弓道選手権大会

個人 5位
一般男子の部 個人 5位
一般男子の部 個人 5位
一般女子の部 個人 3位
男子二段以下の部
遠的 2位
近的 2位
総合優勝



祝、北信越2位!

柔道部 部長 土田 利幸 (機械制御システム工学科 4年 新潟県立新潟工業高校出身)

柔道部は週2回、柏崎市の武道場で練習しています。試合等にも積極的に参加しています。最近行われた試合結果は以下のとおりです。

第1回湊谷杯北信越学生柔道大会(個人戦) 100kg超級 小俣正樹 1回戦惜敗
100kg超級 伊藤洋介 準優勝
第14回新潟県学生柔道選手権(団体戦) 新潟工科大 1回戦惜敗

見事伊藤君が北信越2位という創設以来の快挙を成し遂げました。

併せて、柔道部では部員を随時募集しています。柔道又は格闘技に興味がある方、初心者、経験者問いませんのでお気軽に見学にお越しください。



物質生物システム工学科 3年
伊藤洋介君
(新潟県立新発田南高校出身)

[関連URL <http://takeno.iee.niit.ac.jp/judo/judo.html>]

県選抜代表選手に選ばれる!!

機械制御システム工学科4年の佐藤哲宏君(バスケットボール部所属)が、12月19日(日)に行われる県学生バスケットボール連盟主催の特別試合、石川県選抜V.S.新潟県選抜戦の県選抜選手に選ばれました。

佐藤君は「今回選抜に選ばれてとてもうれしかった。試合では思い切り攻めていきたい。学生最後のいい思い出ができれば嬉しい」と話していました。

今後のますますの飛躍を期待したいものです。



佐藤哲宏君 (新潟工業短大出身)

■ ■ ■ 建築学科における職業実習報告会を終えて ■ ■ ■

建築学科 助教授 中野 克彦

10月13日（水）に建築学科3年生による職業実習報告会を開催しました。例年は、建築学科教員、建築学科3年生および2年生の参加による報告会でしたが、今年は学長はじめ他学科教員にも参加していただきました。職業実習は、毎年、夏休み期間中に実施しているインターンシップ制度であり、今年は8月23日（月）から9月3日（金）の2週間程度で行いました。



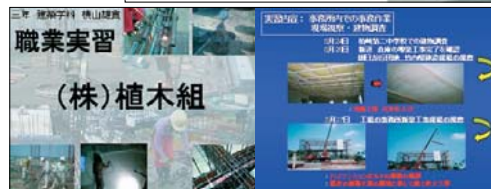
報告会当日、発表前のおどおどした様子は微塵も感じさせない堂々とした発表に、学長も恐れ入った様子でした？3年生に続く後輩たちも何かを感じ取ったことでしょう！ごくろうさまでした。

建築学科における職業実習の履修者は31名で、実習先は27社でした。実習先の業種は新潟市役所、ゼネコン、設計事務所、工務店、設備関係、メーカー等の大半が建設関係であり、実習内容は施工現場（住宅、高校等）での現場管理、設計計画およびCAD、金属加工、木材加工

等の多岐にわたっています。また、建築学科での実習先に対する指導は自己開拓を原則としており、全体の3分の2の学生が自分で開拓しました。したがって、自己開拓した学生のほとんどが自分の親または親類縁者の方々に指導を受けたことになります。

私としても、職業実習の指導は初めての経験であり、学生達の取り組み方、また、実習先の受け入れ態勢等に関して不安で一杯でした。しかし、実習期間が終了した後に学生達に感想を聞いてみると、全員が実習を無事に終了し、ほとんど全員が有意義な経験ができた喜んでいてことで不安は吹き飛びました。受け入れ先企業の学生に対する配慮は大変行き届いており、その実習内容に関して、我々教員が見習わなければならない事が非常にたくさんあるようです。学生は実社会を垣間見る事ができ、また、受け入れ先が親の場合には、経営者として違う観点からの親の姿が見られて、大きく成長できたのではないのでしょうか。今後、この職業実習を全員の学生が受けられるように建築学科として努力していきたいと思っています。

報告会は、約150名の参加者によりS1大講義室で開催されました。本格的なプレゼンテーションは初めての3年生ですが、発表前の緊張の様子は少しも感じさせない素晴らしい発表を見せてくれました。日頃の建築学科教員の指導もあると思いますが、皆、頼もしい限りです。自信を持ってください。



報告会当日のプレゼンテーションの一部です。全員分を掲載したいのですが、紙面の都合上で申し訳ありません。アニメーションが見せられないのが残念です！

座談会

職業実習で得たものは？



建築学科3年
武田 楓さん
(新潟県立新潟中央高校出身)



建築学科3年
横山雄貴君
(新潟県立新潟南高校出身)



建築学科3年
栗原勝幸君
(新潟県立柏崎常盤高校出身)

司会：今日は、「職業実習」を体験した感想をお聞きたいと思ひまして、3人にお集まりいただきました。早速ですが、どんなことをやってきたのか、それぞれで紹介いただけますか。では、栗原君から。

栗原：はい。私は東北工業株式会社という柏崎の建設会社へ実習に行きました。建物の新築工事現場で、作業服を着て丸一日働いていて、結構ヘトヘトになりました。特に最初は、知識もついていなくて、結構苦労しました。

横山：私は株式会社植木組の建設現場でした。現場監督の補佐がメインの仕事で、鉄筋の配筋チェック、開口部周りの墨出し、それに雨水の処理や廃材の撤収作業など、重労働が多かった。正直、はじめは逃げ出したいくなりましたよ。

司会：建設現場は頭も心も体も鍛えられる、ということですか。

栗原：物事を責任を持って進めないと、すぐに周りの皆に迷惑がかかるんです。だから、確かな知識と技術を持った上で、責任を持って進める。実習中は「今、大人の仕事の世界にいるんだなあ」と実感しました。

横山：確かに、分野ごとのスペシャリストが集まって仕事をこなしていくわけですが、皆まなざしが真剣そのものでしたね。「職人」とはこういう人たちのことを言うんだな、と思いましたよ。

司会：武田さんは確か、設計事務所でしたか？

武田：はい、株式会社福田組フクダハウジングという会社へ実習に行きました。主に事務所内でのプラン作成、それとCADを使った図面作成をやっていました。設計事務所の一通りの仕事の流れが理解できるように、とのご配慮で、私の両親を施主に見立てて新築住宅に対する希望を聞いて、それに基づいて図面を完成させるところまでやりました。それだけでなく、建設現場の見学の機会もありましたが、細かい収まりの部分とか、図面では気づかないようなところが現場で問題になる、というのは驚きだったな。

司会：営業と設計と現場の全部を体験できたということですね。

栗原：現場でも設計事務所でも、やっぱり人間関係はとても大切だね。一人でやっているわけではなくて、常にいろいろな人と関わりながら仕事を進めている。

武田：そう、現場の問題は現場にいる人たちのコミュニケーションで解決しなくちゃならない。だから、仕事をやっているときは、ただ受身で待っていても何も進まなくて、とにかくやっていることを積極的に周りにアピールしていかないと、自分の存在まで見失いそうになる。

栗原：積極的な自分のアピールはもちろんだけど、周りの人たちの仕事のやり方を積極的に盗んでいく、という姿勢も求められ

るね。ほんとに実習中はボーッとしてられないよね、もったいなくて。

横山：いろいろなスペシャリストが集まって仕事をしているわけだけど、いいものを作りたいという「情熱」を皆もってるね。現場の人たちの仕事に対する情熱はすごいものがあつた。積極的にならなきゃ、っていう義務感というよりは、好きだからやってるんだな。職人の世界は憧れますね。

武田：そういえば、大学の講義でさあ、「グループで設計コンペに出せ」という課題が出てたでしょ。あれって、結構実社会の仕事の進め方に似てない？

栗原：そう思うね。必ずしも気の合わない友達とか（笑）とも、ある目標に向かって一緒に動かなきゃならない。でもうまく人間関係がまとまって、共通の目標さえ見つかったら大体成功するね。そういうの、横山君うまいんだよね。

横山：確かに、製図とかの小手先の技術があつても、グループのメンバー全員に情熱がないと作品はまとまんないよね。

武田：建築って、自分が関わった仕事が大きき形として残っていく仕事だって、あらためて気づいた。もう学生生活も1年ちょっとだけど、授業への取り組み方も変わってきそうだなあ。

司会：最後に、これから職業実習を控えている後輩に何か一言いただけませんか？

武田：どんな仕事に就きたいか決まっている人もそうでない人も、職業実習では「企業を知る」「自分を知る」いい機会になると思います。単位がもらえる以上に得るものがあります。おすすめですよ！

栗原：大学にいただけでは得ることのできない知識や教訓を学ぶことができました。貴重な経験ができるはずですから、是非実習に行ってみてください。

横山：実習は、最初は慣れないですから大変かもしれません。でも、自分のやっていることに「誇り」と「情熱」を持つことの大切さを教わりました。人生観が変わるかも！

司会：今日はありがとうございました。

(司会：建築学科 教授 飯野秋成)



屋上のコンクリートの打設

屋上の階壁のコンクリートの打設

このほかにも現場の所長から、トランシットの使い方、鉄筋の知識、コンクリートの知識を教わり、また、設計事務所の方による鉄筋の配筋検査にも立ち合わせてもらいました。

屋上図

立断面

実習で得た、働いて大変だね

学校では得られない現場ならではの特別な体験すべてが勉強になりました！

建設現場で、監督にとって一番大切な事は、職人さん達との信頼関係である!!

お疲れ様でした！

◆栗原君（左上）、武田さん（右上）、横山君（左）による「職業実習報告会」のスライド。報告会では友達の実習の様子もわかるし、後輩に実習の大変さや面白さも伝わると好評の企画だ。実習時にカメラを持っていて気づいたときにいろいろ撮影してくるのだが、唯一自分自身を撮影した横山君の表情によって、皆の実習の大変さが理解できた気がする（笑）

■ ■ ■ オープンキャンパスは今年も盛況 ■ ■ ■

今年度のオープンキャンパスが終了し、延べ366名が参加しました。第1回は今年の夏を象徴する猛暑の中7月24日（土）に行われ、224名が参加、第2回は秋の長雨の合間で何とか持ちこたえた10月2日（土）に行われ、142名が参加と、ともに昨年を上回る参加者となりました。

当日は新潟、長岡、直江津、柏崎のほか、第1回目は県外の高崎と長野から無料の送迎バスを運行し、新潟県内全域と隣接県から多くの参加者が集まりました。なかには兵庫、三重、東京、埼玉など遠方からの参加や、2回とも参加した熱心な生徒など、本学への関心の高さが

うかがえました。

参加者の多くは推薦入試を意識しており、入試説明の時間にはメモをとりながら真剣に説明に聞き入っていました。午後からは希望の学科で模擬実験を体験したほか、志望学科の決まっていない生徒やご父母は学内を見学してまわりました。

模擬実験では、各学科の教員に混じって研究室の学生たちが実験・実習の補助にあたり、実験内容や機器の使い方を説明しました。年齢の近い先輩からの指導は、参加者には好評だったようです。



機械制御システム工学科



物質生物システム工学科



情報電子工学科



建築学科

当日担当した学生たちの感想を集めてみました。

オープンキャンパスに参加して



情報電子工学科 4年
田口 佳孝
(新潟県立分水高校出身)

7月にはロボットのプログラミングを実演し、10月にはアナログ・デジタル変換の実験を担当しました。まず感じたのは、他人に教えることの難しさです。より解り易い説明を行うには、自分自身がその内容を充分理解していなければならないことを実感しました。また一方で、教えることの喜びを感じました。これから会社に入り、いずれ教える立場になるであろうことを考えると非常に良い経験であったと思います。



情報電子工学科 4年
吉田 秀輝
(新潟県立長岡工業高校出身)

第1回目は、腕に加速度センサを取り付け、その動きに応じてロボットアームを動かす実験を担当しました。使用したインターフェース回路や制御プログラムはこの実験のために自作したもので、目的の動作を実現するために試行錯誤を繰り返しました。そして当日の朝に完成をむかえた次第です。現

に取り組んでいる卒業研究課題は別の内容ですが、同様に自分のアイデアを盛り込んで社会に役立つ機器の開発を目指したいと思います。



建築学科 3年
竹節 俊介
(長野県立中野実業高校出身)

建築学科ではVectorworksを使って家を建ててみるという体験をしてもらいました。これに取り組んだ高校生は話をよく聞き、配った資料を見ながらスムーズに家を建てていました。自分はその高校生がわからない時に教える手伝いをしていたのですが、皆優秀で自分は必要無いのではないかと感じ知られるほどでした。この調子でこの大学に来て4年間みっちり楽しく、技術・知識を学んでいけば卒業するころには凄いことになると思いました。

最近、建築学科ではカリキュラムの変更があり、1年前期に基礎ゼミなるものができました。(ちなみに僕たちにはなかったです) はっきり言って無茶苦茶羨ましいです。環境はとにかくいい！というより良くなる一方です。「基礎ゼミ」ではまだあまり親しくない時期にグループに振り分けて共同で椅子やポスターなどを作ったりします。これにより製作意欲とコミュニケーション力がつき、第一

に友達ができます。それと建築でも大切な製図の授業では、地元で活躍されている建築家の方も加わり、製図の判らない所があると聞きに行き、そこをピンポイントで教えてくれます。また、自分の製図をいかに工夫し条件を満たして完成させるという、達成感・充実感と楽しみを知ることができます。製図・建築がおもしろくしょうがなくなるほどだと思います。ですので、これを読んで興味を持った人は是非体験やら入学してきてください。興味＝好奇心は何にでも大切なことなので、一步やってみるという実行に移してみましよう。



建築学科 1年
井村 沙哉子
(新潟県立新津高校出身)

7月24日、10月2日に行われたオープンキャンパスに、緊張の連続でしたが、参加させていただきました。

7月は先輩方も参加されていて、大きな安心感の中、私も参加することができましたが、10月はほとんどが1年生で、現在講義でCADを使っているとはいえ、正直緊張しました。参加者の方も少し緊張した様子で席に着き、教授の説明に真剣に耳を傾けていたのが印象的でした。CADを始めてすぐは遠慮気味に手を挙げて質問していましたが、段階が進むにつれて慣れてきて、笑顔が少しずつ見られて、楽しそうに作業をしていました。迷っている人の隣に行き、私も講義でここは良くやり直しをするなあ…と同じ目線に立って参加することができました。実際に自分で

CADを使うのとは違い、教えることの方が難しかったですが、普段の講義では味わえない緊張感の中、とても勉強になりました。

参加者の皆さん1人1人が、家の大きさ、木や車の配置、壁や屋根の色など、短い時間でしたが個性あふれた家が出来上がりました。ぜひ、実際の講義でもCADを使って、皆さんの個性を存分に発揮した家を作ってください。

学内見学のご案内

オープンキャンパスは終了しましたが、今後は個別の見学を受け付けます。学内の施設、設備等をご覧になりたい方は、前日までに電話でお申し込みの上、お越しください。(見学は、祝日や年末年始を除く月曜から金曜までの午前9時から午後5時の間にお願いします。)

本学には、毎年1,000名を超える見学者が訪れます。内訳は高校生やPTAを中心に、小中学生や一般企業の方などさまざまです。最近では、総合学習の時間を利用した高校1、2年生の見学が増えているほか、模擬授業や実験を希望する高校が増えています。本学では地域に開かれた大学として、一人でも多くの方の見学をお待ちしています。

[関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2004/opencampus1.htm>,
<http://www.niit.ac.jp/news/2004/opencampus2.html>]

公開講座は全日程を終了

平成16年度公開講座は技術講座、教養講座とも全日程を終了しました。

上越市の県立看護大学との提携で実施した技術講座・講義編「よりよい長寿社会を目指して」では、同大から中島紀恵子学長らを講師としてお迎えしたほか、本学の教員3名が同大学の公開講座「サクセスフル・エイジングへの挑戦」に講師として出向き相互協力をはかりました。当講座では、初めて本学の公開講座を受講された、特に女性の受講者が多かったのが特徴的でした。

また、昨年ご好評をいただいた技術講座・実験編は、今年度は本学の教員で組織する生物情報工学研究会が、前期・後期の二本立てで実施しました。受講定員が少なく、受講をお断りさせていただいた皆様には心よりお詫び申し上げます。



技術講座・講義編 県立看護大学・中島学長(10月21日)

各講座の概要と受講者数、規定の回数を受講した修了者数は次のとおりでした。

★教養講座「ロシアのお酒『ウォッカ』について：ロシア社会の断面」

講師：根村 亮 助教授

6月1日～29日(全4回) 柏崎エネルギーホール

受講者：48名 修了者：33名

★技術講座・実験編〔前期〕「お酒に強い？弱い？自分の遺伝子を調べてみよう！」

講師：小野寺 正幸 助教授、渡邊 壮一 助教授

6月10日～7月1日(全4回) 本学・物質生物第1学生実験室

受講者：26名 修了者：24名

★技術講座・実験編〔後期〕「遺伝子操作に挑戦しよう！」

講師：小野寺 正幸 助教授、渡邊 壮一 助教授

9月14日～10月5日(全4回) 本学・物質生物第1学生実験室

受講者：20名 修了者：18名

★技術講座・講義編「よりよい長寿社会を目指して」

—県立看護大学との提携プログラム—

9月30日～11月4日(全5回) 本学・S1大講義室

講師：村上 肇 教授、飯野 秋成 教授、寺島 正二郎 助教授、県立看護大学 中島 紀恵子 学長、北川 公子 助教授

受講者：79名 修了者：55名

あまり馴染みがないかもしれません。

- ・・・原子力関連の保守・点検の仕事をしているようですが、その中で貴方はどのような担当でしょうか？

小林：今は、福島第二事業所保守工事課に所属しています。保守工事課の主な業務内容は、発電所で定期的に行われる発電所設備の保守・点検業務を担当しています。当社では、その他に、放射線管理、放射性廃棄物処理なども行っています。

- ・・・どちらかというと機械的な知識を必要とする部門ですね？作業は難しいですか。大学で学んだ知識は直接には役に立ちにくいという事でしょうか。

小林：「物質生物」でしたので、化学が主でしたから確かにそういう面はあります。しかし、会社で基本的な研修を受けますので大丈夫ですし、科学的な考え方は同じですからそれほど影響するものではありません。企業に入ってからが本格的な勉強になります。

- ・・・いま言われた保守・点検業務の中では、主としてどんな事を担当していますか？もう少し、具体的に説明してくれますか？

小林：はい。原子力発電は、簡単に言うと、ウラン燃料を核分裂させる原子炉と発電を行うタービンで構成されています。私はいま、原子炉の方を担当しています。具体的に何をするのかといいますと、原子炉は、燃料を

扱っているところなので、放射性物質で汚染してしまいます。その放射性物質を当社で開発した除染装置などを使って除去（除染）するのがメインの業務です。詳しくは、当社のホームページ（<http://www.atox.co.jp/>）をご覧ください。

- ・・・最初は確か青森県の六ヶ所村の核燃料再処理施設に勤務し、次いで茨城の東海村の原子力関連施設、それから今の福島と2年間にしてはよく転勤しますね。

小林：当社は、全国の原子力発電所または原子力関連施設に事業所があります。北は北海道から、南は九州までですので、転勤は結構多い会社ですね。でも、いろいろなところに行けるという利点もあります。

- ・・・工科大の大先輩となるわけですが、後輩たちに就職のことなど何かアドバイスはありませんか。

小林：私の体験談になりますが、就職先を探す際に、あまり専門分野に囚われず広い視点で探したほうがよいと思います。少しでも興味があったら、説明会にどんどん参加したり、インターネットで調べたり積極的になることが大事です。

- ・・・今日はどうも有り難うございました。今後とも健康に留意して頑張ってください。

（聞き手：物質生物システム工学科 教授 北山 憲三）

■ ■ ■ 柏崎工業メッセ2004に出展 ■ ■ ■

10月8日（金）、9日（土）の両日、柏崎みなとまち海浜公園において「柏崎工業メッセ2004」が開催され、2日間で約12,000人が来場しました。本学からは4ブースを出展したほか、8日午後からは研究シーズプレゼンテーションを行いました。

●出展内容

「お酒に強いですか？それとも弱いですか？」
「エネルギーを作ろう！」
「研究シーズパネル展示」
「地域産学交流センター紹介」

●研究シーズプレゼンテーション（8件）

福祉機器開発のヒントとパートナー募集（寺島助教授）
生体親和性樹脂材料の開発（原嶋助教授）

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/center/messe2004.htm>〕

情報通信ネットワークに関する研究（宮澤教授）
移动通信ネットワークのハンドオフ制御方式に関する研究（伊藤助教授）
クリーンな廃プラスチック熱分解油の生産（秋元教授）
静電気を利用した選別技術の開発（佐伯教授）
地域の気候風土を考慮した環境改善・調整技術の開発（富永教授）
コンクリート系構造物の安全性確保と高性能化（中野助教授）



秋元正道教授によるプレゼンテーション



「エネルギーを作ろう！」ブース

■ ■ ■ 技術者向けスキルアップ講座を開講 ■ ■ ■

企業向けの講座として、技術者向けスキルアップ講座2004を開講しました。今年度は、新潟、柏崎、上越で3シリーズを行いました。各会場と回数は次のとおりです。

●「医療・福祉分野におけるニーズと機器開発」シリーズ （新潟ユニゾンプラザ）全5回

●「制御工学の基礎」シリーズ （柏崎、本学大学院講義室）全6回

〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/center/skill.htm>〕

●「情報通信技術の基礎」シリーズ（上越市市民プラザ）全5回



寺島正二郎助教授 10/13 新潟会場



中嶋新一教授 10/13 柏崎会場

佐伯教授が日本機械学会より表彰



機械制御システム工学科の佐伯暢人教授が、日本機械学会北陸信越支部賞 優秀講演賞を受賞しました。演題は「帯電特性を利用したアルミとプラスチックの振動選別」でした。

飯野教授に日本リモートセンシング学会より功労賞



建築学科の飯野秋成教授に、このほど日本リモートセンシング学会から功労賞が贈られました。当学会の学術講演会プログラムの編成を10年以上にわたって担当してきたことに加え、昨年度秋季に長岡で開催された学術講演会の実行委員として中心的に活動したことが評価されたものです。

初めての同窓会総会を開催

本学で初めてとなる同窓会総会が10月23日（土）、新潟市の新潟グランドホテルで開催され、新潟工科大学産学交流会の会員企業からの来賓をはじめ、卒業生、教職員など約300名が出席しました。

北は北海道、南は和歌山県から参加した卒業生は、久しぶりに再会した友人や恩師たちと懐かしそうに歓談し、近況報告や電話番号・メールアドレスを交換するなど、思い出話に花を咲かせていました。後半には新潟グランドホテルのペア宿泊券などが当たる抽選会が催され、当選者が発表されるたびに拍手がわき上がり、賞品と引き換えに行われた近況報告では会場が笑いで包まれました。

また、同窓会から開学10周年の記念品として石丸雨虹氏の書が大学に寄贈されており、松田敬同窓会長から目録の贈呈が、これを受けて永井淳夫理事長から感謝状の



贈呈が併せて行われました。

会も終盤に差し掛かった午後5時56分ごろ、新潟県中越地震による大きな揺れを感じましたが、混乱はなく、無事盛会のうちに終了しました。その後、卒業生たちは別れを惜しみながら、思い思いに会場を後にしました。



〔関連URL <http://www.niit.ac.jp/news/2004/dosokai.html>〕

■新潟県中越地震、本学も直撃

10月23日（土）に発生し、甚大な被害をもたらした新潟県中越地震により、本学校舎も少なからず被害を受けました。南棟2階の天井にある加湿器への給水管が破損し、南棟2階と1階講義室の一部が水浸しになったほか、管理棟および建築実験室脇の埋め戻し部分が陥没しました。そのほか、学生駐車場、舗装道路には無数の亀裂が生じました。この影響で、同25日から30日まですべての講義を休講し、設備の復旧と点検に全力を挙げました。

被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。



編集後記

大学としての一大イベント！というものを前面に出せない時期ですが、だからこそ「職業実習報告会」や「公開講座」などという地に足の着いた本学の活動をきっちり報告できるチャンス！「学生にどんどん文章を寄せてもらおう」のが今回の編集のポイントでした。それを「読みやすい記事にする」には、結構な赤ペン校正をしましたけれども…（苦笑）

発行

新潟工科大学広報誌 第6号
平成16年11月20日
新潟工科大学広報委員会

新潟工科大学

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
TEL.0257-22-8111（代表）
FAX.0257-22-8112
E-mail:gakusei@adm.niit.ac.jp
URL:<http://www.niit.ac.jp>